

# 2014年度 日本学連臨時幹事会 議事録

開催日時：2014年(平成26年)11月8日(土) 13時12分～18時59分

開催会場：熊谷会館(埼玉県熊谷市)

## 【議題】

1. 後援申請
2. 春インカレの夕食について
3. インカレスプリントについて
4. 大学院生の学連登録について
5. インカレミドルのBエリートについて
6. 次回幹事会について

## 【出席者】(敬称略)

氏名	役職	学校名
山川克則	副会長	東京大学卒
齋藤翔太	理事	一橋大学卒
田村直登	理事	東北大学卒
大西康平	技術委員会委員長(途中参加)	京都大学卒
宇井賢	幹事長	京都大学
佐藤大樹	副幹事長	東京工業大学
平野大輔	事業部長	名古屋大学
高橋秀明	広報部長	金沢大学
新粥文哉	事務局長	千葉大学
杉村俊輔	普及部長	東北大学
橋場良太	渉外部長	東北大学
大久保宗典	会計	東京大学
野本圭介	会計監査(途中参加)	筑波大学
五味あずさ	会計監査	金沢大学
久須美裕	北信越学連幹事長	新潟大学
村瀬貴紀	関東学連幹事長	筑波大学
今井祐太	東海学連幹事長	名古屋大学
糸井川壮大	関西学連幹事長	京都大学
山上大智	インカレロング2014実行委員会委員長	東京大学卒

議事録作成：高橋 秀明(広報部長・金沢大)

# 2014年度 日本学連臨時幹事会 議事録

発言者 (敬称略)	発言内容など
	幹事会開始: 13時06分
新粥	<b>1.後援申請</b>
	第1回幹事会で後援申請を承認した後、延期が決定した京大大会について、改めて後援申請があり、承認された。
	延期になった京大京女大会だが、期日が変更になった。それ以外については変更はない。 →全会一致で承認された。
宇井	<b>2.春インカレの夕食について</b>
	春インカレ実行委員会より、全宿泊施設での夕食対応が難しい状況であることが報告された。その解決策として5つのプランが提案されており、幹事会においてメリット・デメリットを検討した結果、「夕食対応ができない宿泊者については、各自で夕食をとり、実行委員会側には飲食店を手配してもらうこと」をお願いすることとなった。
宇井	<p>【実行委員会から届いている連絡】 春インカレの宿泊における夕食対応について</p> <p>現状、全宿泊施設で夕食対応が難しく、宿泊者の約1/4には夕食を提供できません。そこで、実行委員会側では以下のプランを検討しております。学生側としては、どのプランが適当か検討して頂けませんでしょうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 夕食対応が出来ない参加者は、各自で夕食を手配。2日分で食事券3000円を配布あり。</li> <li>2. 夕食対応が出来ない参加者は、各自で夕食を手配。2日分で食事券3000円の配布なし。</li> <li>3. 全ての施設で夕食対応なし。全ての宿に弁当支給。</li> <li>4. 全ての施設で夕食対応なし。夕食は各自手配。2日分で食事券3000円の配布あり。</li> <li>5. 全ての施設で夕食対応なし。夕食は各自手配。2日分で食事券3000円の配布なし。</li> </ol> <p>※補則 夕食対応が出来ないのは、豊橋・豊川地区の一部の宿になります。そのため、近隣の飲食店で夕食をとることは可能です。</p> <p>プラン2の方が1に比べて、夕食対応ができない参加者に対し、宿泊費として3000円安くなります。プラン5の方が4に比べて、宿泊する参加者に対し、宿泊費として3000円安くなります。</p> <p>新城地区は全ての宿泊施設で夕食対応可能です。 また、近隣には飲食店が少なく、大人数で食事をとるのには苦勞します。</p> <p>食事券は、近隣のファミレスなどで使用できるものです。 ただし、新城の宿泊施設の近くには、食事券対応の店がない可能性があります。</p> <p>宿泊施設は希望調査を行い、人数などの観点から日本旅行で公平に振り分けていただく予定です。</p>
宇井	「公平性を重視すれば、すべての施設で同じ対応をするのがよい」という考え方がある一方、「宿泊施設は日本旅行によって公平に振り分けられる」という観点から考えるならば、1番でもよいだろう。
杉村 佐藤	学生の意見を聞きたいということなので、皆さんに意見を出してほしい。ただ、現実的には、「弁当が続くというのはしんどいので、出来れば夕食対応があってほしい」というのが学生の本音だと思う。
宇井	食事券を配布すると使用できる店に限られるのではないだろうか。
杉村	食事券が使用できる店は要項に書かれるだろうが、宿泊者が向かう店が偏ってしまう可能性がある。その結果、食事が出てくるのが遅くなり、その後の予定も遅れてしまうだろう。
田村	特に規模の大きな大学は、夜遅くに宿から遠いところへ出歩くことはあまりしたくないだろう。
	ここには言及されていないが、朝食対応はどうなるのだろうか。
	ビジネスホテルでは朝食のみ提供されている(ので、夕食の対応がなくても朝食は対応してくれるということはあり得る)。

平野 杉村	(実行委員会に)確認したい。 4と5は厳しいのではないだろうか。新城方面へ宿泊する大学に対しては、ちゃんと夕食対応をしてほしいと思う。
山川 高橋 宇井 佐藤 宇井	新城で夕食をするのはとても苦勞する。ただ、コンビニの弁当などでカバーできるかもしれない。みんながコンビニでご飯を買ったら、品切れするのではないだろうか。 4・5は厳しいということだが、他の選択肢についてはどうだろうか。 メリット・デメリットをまとめてみてはどうだろうか。 3のメリットはみんな同じ条件なので、ある意味公平だが、デメリットは全員が弁当ということだろう。宿の夕食並みの弁当が出てくれば良いと思う。
山川	葬式の弁当を扱うようなところに頼めば、豪華な弁当になる。自分が主催した大会で豪華な弁当を頼んだことがある。
宇井	食事券が2日間3000円分用意されるということは、弁当についても1500円分のものを考えているのだろう。1・2のメリットは、ほとんどの人が宿で夕食が食べられることである。外れた場合でも出さなければならないが、それなりのものが食べられる。
佐藤 齋藤	豊橋・豊川地区ならば、(外食することになっても)大丈夫だろう。 実行委員会は学生の決めたことをやることを尊重するだろう。自分が宿泊施設で夕食対応を受けられなかったときのことを考えて議論してほしい。「宿泊者の4分の1」というと250人くらいであるから、対象者は多い。
大久保	東北大や東大など(の人数の多い大学が)が突然お店に行っても食べられないだろう。宿での夕食対応がない場合、実行委員会や日本旅行で、お店のあっせんなどをしてほしい。
佐藤	実行委員会側で貸切するぐらいしないと無理なのではないだろうか。3月までまだ時間があるから、お店のあっせんをお願いすればやってくれそうな気がする。
宇井	お店をたくさんリストアップしてもらわないと厳しいだろう。1については、お店を用意してもらうことを前提として考えていきたい。また、一部のお店に集中してしまうと困るので、大学単位で行くお店を指定したり、お店のジャンルを決めたりしないといけないだろう。1と2の場合についてはそのように考えたい。
佐藤	お店を探し回るのはいちばん不毛な時間を過ごすことになるので、大学ごとにお店を割りあててもらえないのではないだろうか。
五味	3000円分の食事券をもらっても、800円の定食を食べて(1日当たり)700円余ってしまったら、どうなのだろうか。それを考えると、1500円分のメニューを作ってもらえば必要があると思う。
田村	店を割り当てる場合、食べるメニューを事前に決めないといけないのではないだろうか。
宇井	店を取ってもらうのなら、あらかじめ1500円分の食事を用意してもらった方がいいと思う。
佐藤	お店に行ってから頼んでいると、手間と時間がかかる。
糸井川	ただ、チェーン店なら、そういう対応はたぶん難しいだろう。その場でメニュー表を見ながら選ぶしかない。
宇井	あと、宿と店との移動距離も問題となるだろうが、豊橋・豊川地区ならば店はあるだろう。
佐藤	しかし、200人分近くの夕食をお願いすることはたぶん難しい気がする。実行委員会はどのくらい考えてくれるのだろうか。
齋藤	日本旅行に頼んでみないとわからない。
平野	私なら、弁当を食べるより、移動してでも暖かい食事をとりたい。
宇井	個人的には、宿で弁当は寂しく感じる。
佐藤	私は弁当でも構わない。3の考え方は、「みんな一緒ならば問題ない」というものだろう。
宇井	そこは意見が割れるところだと思う。もし1にした場合、夕食対応のない宿の宿泊者から不満出るのは避けられないだろうが、用意できないものは仕方ないものとして、理解してもらえない。
佐藤	要項などにそのことを書いてもらうことになるだろう。ただ、1の場合、飲食対応の有無などについて、お願いしてみないとわからない部分がある。まず、お店がどのくらいあるかわからない。また、お店の候補を提示してもらうようお願いすることになると思うが、その候補の中で、チェーン店などでメニューから選ばないといけなくなった場合、食事券なしの方がいいのではないだろうか。
宇井	どちらにせよ、食事券はいらないということにしたい。
五味	1500円分の食事が用意できていた場合、3000円は事前に徴収することになるだろうか。そうしたら、食事券というものはなくとも、金額が一緒になるということだろうか。
宇井	そういうことにある。どの段階で徴収するかによる。食事が用意できず、個人で頼む場合、値段はその時に決まることになるので、もともとの宿泊費より安くなるということになる。 (これまでの議論の流れを踏まえて)2と3のどちらかに決め、その後細かいところを考えたい。 →実行委員会に飲食店と1500円分の夕食を手配してもらうことを前提として、2のプランをお願いすることとなった。(2:賛成11)
宇井	もし1500円分の食事は用意出来なくなった場合、実行委員会側で用意してもらったお店に行き、個人でメニューを注文してもらうのがよいだろうか、それとも、弁当がよいだろうか。 →弁当を手配すべき:0 →実行委員会側で用意してもらったお店に行き、個人でメニューを注文してもらう代わりに、宿泊費3000円安くしてもらうように、お願いすることとなった。
	(13時42分 大西 到着)

### 3.インカレスプリントについて

インカレロング前日に開催した、「インカレスプリント試行大会」についての反省や、その直後に集めたアンケートの結果を整理し、インカレスプリントの目的・日程・運営の在り方・実施規則などについて深く議論した。そして、12月に予定される臨時総会で、正式な立ち上げを認める承認を得るために、議論の結果を周知し、意見を求めることとなった。  
なお、その他細かい議論については、次回幹事会以降に先送りされた。

宇井 インカレスプリント試行大会の反省と、規則として決めなければいけないことを明らかにすることであるだろう。それらについて話し合いたい。

宇井 【インカレスプリント試行大会の反省】  
まずは山上さんに報告をお願いしたい。  
資料(報告書)読みあわせ  
(14時14分 野本 出席)

山川 似て非なるものとして、スプリントとパーク0の違いを一度整理しようと思っている。  
パーク0はみんなのものであり、私が開催してきた大会のほとんどはその部類に入る。一方、スプリントはショーであり、いろいろ突き詰めていけば、結局エリートだけのものである。「オリエンテーリングをオリンピック競技にするために、オリエンテーリングをより多くの皆さんにわかってもらう」ことを目的とする戦略的な種目であり、また、他のスポーツと同じように、人間の能力のある部分にフォーカスを当てて、優劣をつけようとする、先鋭的な種目でもある。それはオリエンテーリングがずっと昔からやってきた「Sport for all」というものとは趣が違っている。本当にスプリントをやろうとした時には、いろいろな壁にぶち当たるので、1つの形になるようなもの(として、今回、インカレスプリント試行大会)を開催した。

インカレスプリントには4つの大きなコントロール側面があり、いずれにも予算が関わってくる。まず、メディアコントロールでは、カメラの向きや実況する内容まで、すべてコントロールされる。世界では、「どこにテレビクルーを置き、どのように行うのか」、1つの種目のために、時間を多くかけて打ち合わせやリハーサルが行われるのだが、日本では全然厳しい。

また、コースコントロールとイベントコントロールについては、昔からミドルやロングで行われてきたので慣れていることである。

あと、ミドルやロングでは、「マップの作品の中でみんなが競技をすべきである」という考え方が主流であるので、(他人が)手を加えることはほとんどないが、スプリントでは、マッピングコントロールとして、公平性を害しているとベテランが判断した場合、どんどん修正を加える。本来は正式に役職があるのだが、今回は私が裏で、かなり時間をかけて行った。マップの出してきたコースが細かすぎて、「瞬間で判断できるものではない」と判断したため、直前1週間でもほとんどを書き換えた。より見やすいものが提供されなくてはいけないので、どのくらい誇張していいものか、経験で得られたものを提供しているつもりである。

予算面について言えば、「参加費だけで工面できる大会ではないので(インカレスプリントは)開催しない、という発想はやめよう」という趣旨で昨年から議論が始まっている。今回については、20万円を上限として幹事会決済で赤字を補てんすることとなっていたので、(実際に出た赤字である)79,575円については今回は埋めてもらいたい。ただ、実行委員会には相当努力してもらったと考えている。地図調査代25万円については、3人のプロマップの見積もりを根拠に、西村氏の見積金額をそのまま採用した。また、交通費は実際の金額をそのまま請求したものの、観戦ガイドについては材料費のみが計上されている。

山上 交通費・宿泊費については、実際はスプリントの試走をした日にかかった金額の4分の1をスプリントの会計から支出した。(スプリント会計では)「山上」と書いてあるもの以外の項目は、試走者全員分の経費を計上した。

山川 備品については(インカレロングと)共用のものを使った。消耗品については一切スプリント会計には含まれていない。あと、正式大会ならば大きな優勝カップを作るが、今回は私がメダルを寄付し

3月の(インカレスプリント実験大会での)失敗は、4つのコントロールをすべて一人でやったことだった。(本来は)経験者が3人ぐらいは関わって、積み重ねていくものである。まだ正式な決議はないが、始めてから2・3年はいろんな問題が出てくるだろうし、今回も新しい問題が出てきたのだが、それはインカレロング・ミドルでもたどってきた道のりである。ロングでは10年経って定着しても、なお新たな問題が出てきた。

また、スプリントとパーク0との違いを意識していく(ことも大切である)。エリート種目であり、かつ観戦するための種目であるので、「観戦ガイドが先に配られたために、チャレンジクラスがつまらなかった」という意見は本末転倒である。一言アナウンスすればよかったのかもしれないが、スプリントはそういうものであり、チャレンジクラスを走りたければ観戦ガイドは見なければいい。そういう意見を出すということはスプリントを理解していないということである。チャレンジクラスはパーク0の部類であり、スプリントではない。

他のスポーツにはOBが評議員や理事として、重要事項をすべて決めてしまうものがあるが、オリエンテーリングでは議決権は学生がみんな持っている。学生が主催であり、OBは舞台を作る役割である。インカレスプリントを立ち上げるかどうかの議論も幹事会や総会に委ねられているが、学生が責任を持って決める話である。決してお客さんではない。

山上	(インカレスプリントを議論するために)全日本リレーで臨時総会を開くことになると思うが、極力新しい質問が減るように、みんなが持っているような疑問をこの場を出してほしい。その方が、議論がスムーズに進むと思う。
宇井	各大学から出された意見を私がまとめた。それを見てほしい。(資料5参照) 1. 来年度の開催について 来年からの開催については、賛成が圧倒的に多かったが、個人の意見などとして反対も若干い日程については、今回のようにインカレロング前日が多かったが、翌日がよいという意見もあった。独立開催がよいという意見も2校から出された。
山上	2. 観戦ガイド、エリア、演出について 観戦ガイドについては全体的に好評だった。(観戦ガイドに)ルートまで書くべきでないという意見もあったが、「ルート解説が書かれていて見ごたえがあった」という意見が圧倒的に多かった。その一方、「観戦エリアについてはどこまでが(立ち入っても)OKなのか指定してほしい」、「チャレンジクラス出場者からは観戦ガイドを見たくなかった」という意見が出された。 あと、「スプリントの参加者が翌日のロングでは有利であったのではないだろうか」という意見がいくつかあった。確かに、公園付近で、具体的にみれば、2、7~8辺りがそのような気がする。
山上	(翌日のインカレロング)選手権では、ポストはなかったが、ビジュアル通過後のまわしが(スプリントのポストでは)2→7→8というものだった。
宇井	僕はスプリントを走らなかったが、ロング選手権を走った個人的な感想として、2ポから北東にある門のようなものが通過可能かどうか判断するとき、スプリントを走った選手の方が有利だったのかも。ただ、地図を読めばいいだけの話である。
山川	ロングの地図では、その門は通れるように描かれていたのだろうか。
山上	全然見えなかった。
宇井	見えなそうと思ひ、避けて通った。
山上	スペクテーターレーンを(スプリントの)8ポまで伸ばそうという案があったのだが、「門のところまで伸びていてもいいのだろうか」という話になった。(ただ、結果的には)確かに多少良くなかったのかも。しれない。
齋藤	今回のスプリントでは、スペクテーターレーンはなかったのだろうか。スペクテーターエリアだけだったのだろうか。
山上	レーンは全くなかった。(レーンがあるのは)フィニッシュだけだった。
宇井	また、地図回収についても意見が出ていた。ロング本番で地図を見るのを防ぐために、スプリント終了後に地図を回収し、ロング後に返却すべきという意見があった。 あと、観戦ガイドの枚数が足りなかったという意見があった。
山川	それは言いがかりである。800枚印刷したが、200枚余った。
齋藤	配布方法の問題だろう。配布するだけなら学生を動員してもよいだろう。
山上	当日の配布はOBが行っていた。
宇井	観戦エリアについては、「(選手を)近くで見ることができてよかった」「広くてよかった」という意見がある一方、「(観戦者が)競技の邪魔になった」という意見も多くあった。
山川	「(観戦者が今回の試行大会のように)あの人数なら、アリーナ式の方がよいだろう」と反省点として、やってみて気づいた。
齋藤	現地を見ていないので何とも言えないが、海外ではどのような方式で行われているのだろうか。
山川	全部アリーナ式である。
齋藤	ただ、海外の場合は、ルートチョイスが日本のようにポスト周りだけではなく、出発の時点で分かれるので、ポストの近くに人がいるとわかってしまう。公平性の面で問題だろう。
山川	(海外の場合は)街の中で行われるうえ、GPSトラッキングと映像が世界中にWEB配信するので、それに通じるところがある。
齋藤	海外のスプリントはポスト位置がもっと簡単である。人がいるかいないかは関係ない。
山川	Web配信されている映像を見ても、観戦する場所を柵で区切って指定している。
山上	アリーナ式の場合はレーンを設けることが多い。今回はレーンがない方が面白いだろうと思ひ、それを作らなかった。
大西	私が思ったのは、海外以上に、特に1ポに人がたくさんいた。おそらく何百人もいた。
山川	私も山上・実行委員長も、それは反省点だと思ひているが、1ポと12ポ~13ポのベストルート上に人がたくさんいたことについては、観客の質を上げなくてはいけないと思ひます。次回はそのあたりをコントロールしたい。
大西	(個人的には)12ポ~13ポはあまり気にならなかった。1ポ~2ポは正直顔を上げて何も見えなかったので、(観戦者を)気にせず走れた。ただ、地図が読めていないのもあるが、あれだけ人がいると気になる。(選手はポスト周りに)あんなに人数がいるとは思ひないので、何百人もいるようであれば、固まる位置を事前にだいたい指定した方がいいだろう。
佐藤	「とりあえずみんなあっちに行こう」という流れがあったのだと思ひます。
糸井川	私は会場付近にいたのだが、見やすく楽しいと思ひました。
宇井	あと、公園は一般の方が多かったので、選手との接触の危険という意見があった。 演出については、「ゴール周辺にしか聞こえない」という意見が結構多かった。「1ポや公園の方にはあまり聞こえなかった」「スピーカーを用意してほしい」、また「GPSを付けてほしい」という意見もあったが、それは運営的に厳しいだろう。
山川	(GPSを導入するは)予算が3倍くらいないと厳しい。

### 3. チャレンジクラス、一般クラスについて

- 宇井 「チャレンジクラスを設けた方がよい」とした大学のほとんどが、「フリースタートでよい」という意見であった。モデルイベントとの兼ね合いや運営者の負担軽減を理由に挙げる意見が多かった。「時間差スタートにするべき」という意見も2校あったが、その理由は「公平性がない」ということだった。ただ、もともとチャレンジクラスの意図は競技(を行う)というよりはトップ選手との比較である。一般クラスについては、「必要だ」とした大学より、「必要ない」とする大学の方が少し多かった。「必要だ」とした大学からは、「インカレとして開催するのなら、学生全員が走れる環境を提供すべき」とか「スプリントを広めるのなら、インカレでもたくさんの人が走れる場を提供すべき」という意見があった。一方、「必要ない」とした大学からは、「モデルイベントの時間」や「運営の負荷の軽減」を重要視する意見があった。
- 山上 少数だが、チャレンジクラスも一般クラスもいらないという大学もあった。チャレンジクラスは参加者がいるときに行った方が、収支的な問題でだいぶ違う。「必要ない」という意見は少し変だと思う。

### 4. エリート人数について

- 宇井 エリート人数については、「ちょうどよかった」とした意見も結構あったが、「多かった」という意見が多数だった。募集したときにあまたという状況があったので、特に女子については減らすべきという意見が多かった。

### 5. 隔離エリアについて

- 宇井 「(隔離エリアから)1ポが見えた」という意見が結構あったが、位置的におそらくスタートポストが見えたという間違いではないだろうか。
- 山上 見えないようにしたつもりだったが、それはミスだった。
- 大西 (1ポは)階段を上らないと見えないと思う。
- 宇井 あと、オフィシャルを隔離エリアに入れてほしいという意見もあった。あと、「ウォーミングアップエリアが狭かった」とか「そもそも隔離エリアに関しては、運営側が最善の判断を行い設置していると考え、不満があった場合にはそれは地形や会場の都合で仕方が無いものであるだろうと判断する」という意見もあった。

### 6. その他

- 宇井 「(スプリントは)日本独自のやり方でやるべき」という意見などがあつた。また、「日本学連の幹部の人たちはインカレスプリントに賛成なのか、反対なのか。」という質問もあつた。
- 山上 共通認識を広めていかないと、今回の観戦の問題のようなことが起こる。アナウンスが不足していた部分もあると思うので、(その部分を)意識して行ってほしい。なかなか議事録は読まれないと思う。
- 宇井 あと、表彰式については、「ロングの表彰式と一緒に行うのではなく、スプリント単体でやってほしい」、「おまけのような雰囲気が出ていた」という意見があつた。
- 山上 モデルイベントとの時間を考慮したが、そういう意見もあると思う。
- 宇井 インカレロングのクラスが多いので、表彰式が長い分、おまけのような感じがしてしまうのは仕方がないと思う。
- 来年度の開催について賛成する大学が多い。開催するとした場合、問題になるところ、どこに不満が出てくるのか明らかにしていきたい。
- 山川 たぶん5年くらいはそれがいくらかでも出てくると思う。2回開催して大きな問題が出てきた。そもそも、総会でこのように、スプリントは全部の問題を解決することができない種目である。総会への発議権は幹事会にあるので、議決を取るかどうかを決めた後、どの価値観が一番重きを入れるのか考えていきたい。

### 【観戦エリアについて】

- 宇井 まず課題としてあげられたのは、観戦エリアについてである。これについてはある程度制限すべきなのだろうか。それとも今回のようにある程度自由に観戦できるようにするべきなのだろうか。
- 大西 スプリントを観戦するときは、選手を邪魔しないように見るのが基本だが、今回の観戦者の多くがそのことをあまりわかっていなかったと思う。観戦エリアをどうするかについては大会にもよるので、まず見る側の意識を変えればよいと思う。周りに人が密集していても、ルートさえ確保されていれば、それがスプリントだと考えることができるだろう。
- 山上 今回の反省を踏まえて次回以降のコースセットに生かしてほしいが、観戦エリアは学生側が決めない方がよいと思う。コース設定者側の都合がある。
- 佐藤 特に(スプリントについて)あまりわかっていない1・2年生がスタートの方へ多く移動していた。上級生は(選手権出走のため)隔離され、一般の人はゴールの方において、指示ができなかった。各大学の渉外や(日本学連の)幹事が見る方の意識、ルートを邪魔しないことなどを徹底させればよいと思

### 【インカレスプリントの目指す目標・目的】

- 山川 細かい方に話が行ってしまうので、課題の前にまず目標や目的を設定した方がよいのではないだろうか。
- スプリントは世界選手権のあるフット04種目のうちのひとつであるものの、今までインカレでは見て見ぬふりをしてきて、全日本スプリントに乗っかろうとしたがうまくいかなかった。

インカレスプリント創設の目的について、もう一度きちんと簡潔に規定すべきである。「インカレロング・ミドル・リレーと同じだけの価値を作り出す」ことが目標であることを文章で規定したほうがよい。まだスプリントに価値を見出していない人が多いし、マナーや意識の問題があるが、根本的には、同じだけの価値あるのかどうか問われることになる。それが出来なければ、導入意義がなかったということになる。学連が共通目標として謳い、そのうえで課題に優先順位をつけて解決していけばよいだろう。

齋藤 スプリントとパークOの違いがわからない人やスプリントをわかっていない人がいる。みんなにスプリントを広めていくにあたって、「スプリントとはこういう競技である」という、(もともとある定義より)もっとわかりやすい、スローガンをもっと学生の中で決めてほしい。そして、「だからこそインカレとして導入して、こういうことを目指す」という流れがあった方がよい。

宇井 スプリントの定義として何があるだろうか。

齋藤 そもそも、ロングとミドルについて、みんなはどのように考えているのだろうか。

山川 ロングやミドルは価値のある大会だとみんなに思われているが、それは積み重ねたものがあるからこその結果である。かつては運営がぐだぐだで袋叩きにあったこともある。それでも、なぜ学生に投票権があるのかというと、価値を作るのはOBではなく、参加する学生だからである。オリエンタリングの学連を作ったとき、その仕組みは陸連に倣ったのだが、そこでは学生の幹事長が一応仕切っていて、箱根駅伝の主催も学生である。実情は違うが、オリエンタリングにおいても「学生が自ら価値を作り、OBはそれを補助するだけである」という考え方がある。

佐藤 日本ではスプリント競技をする機会が少ないので、パークOとの違いなどを説明が難しい。ミドル競技やロング競技はまだたくさんある。

山上 そうなってきたのは最近のことであると思う。ロング競技はかつて珍しいものだった。私が現役の時は、ロングとミドルの違いは、距離の違いぐらいだった。

佐藤 最初は「学生の中からスプリント競技で一番早い人を決める大会」という位置づけにして、それを繰り返していくことで価値を増していくものだと思う。そして、「高速なナビゲーションが求められる競技」、「速いルートチョイスと実行力」がスローガン、目標だと思う。

山上 観戦者がいる中で正しいナビゲーションをするというのも大きい。

山川 一番大事なものは継続性であり、さらに、コース・トレイン両面における競技性、観客の多さ、公平さ・公正さが必要である。

全日本スプリントと一緒にやっていた頃は、予算的な思惑があったため、インカレスプリントを否定した。しかし、価値を持っていなかったために、結局、大会を主管する県協会に迷惑をかけることとなり、観客の多さという点で失敗した。

今年の全日本スプリントは200人余りが出場したが、インカレではモデルイベントで750人、選手を除けば650人くらいは確実にスプリントを観戦したので、JOAの持っている仕組みを圧倒している。それを私は大切にしたいと思っている。

競技性と公平さ・公正さはそれぞれ別々のものである。今年のインカレを見ても、植え込みや人がいるところの通行管理や、読みやすい作図がどうかを徹底的にみる、マッピングコントロールの必要がある。完全な公正さを追求するときりがない競技なので、ある程度のところで最大努力として、大枠を規定した方がよいと思う。また、開催時期も観客の多さに関わると思う。

宇井 継続性や会計の観点から考えても、観客の多さを踏まえて、ロング前に開催するのがよいだろう。

山川 ただ今年より魅力的でないトレインしかない場合も想定されるので、そのときはどう対処するか、準備しておかなくてはいけない。

佐藤 それはトレインが決まらないと何とも言えない。ただ、スプリントに求められているものを知るための分かりやすい指標として、「速いルートチョイス」と、「人が見ている中で競技する力」が例として挙げられると思う。特に新人などに説明する場合はこんな感じだろう。

大西 もともと3月に試行大会があったが、いろいろな問題点が出て、6月に今回を第1回の正式大会とすることは厳しいとして、試行大会を開催した。ただ、スプリントをすることに対する反対意見はそれほど多くなく、どちらかというと大会の問題点を上げている。アンケートをすべて見ていないが、今回の結果で、学生全体として「スプリントをやっぺいこう」という流れがあれば、スプリントの定義をしっかり作っていかなくてはならないが、1番話し合わなければいけないのは、(インカレスプリントを)どう継続していくかということだと思う。特に問題がないのなら、次回は「第1回インカレスプリント」になるのだろうが、今重要なのは、観客の多さや競技性より継続性だと思う。

宇井 継続性に焦点を当てていくにあたって、誰がどのように運営するかなども問題だろう。

#### 【日程について】

佐藤 日程についてはほとんどの大学が、「インカレロング前日が良い」としている。(インカレスプリントを正式に立ち上げた場合)ずっと日程はインカレロングの前日でよいのか。

山川 それでよいと思うが、そのように決めてしまうと、身動きが取れなくなる可能性がある。柔軟性を持たせた方がよいと思う。具体的な案ではないが、観客が多いのなら、選択肢はもう少しあると思う。

宇井 このアンケートの結果では、聞き方の問題があり、結果としてはロング前日が多かったが、別の案はないだろうか。

山川 選手紹介をなくせば、ミドルの前日にもできるが、それはみんな嫌だろう。

宇井 「ミドルと一緒にやることは厳しい」という意見が結構多かった。今のところは、現実的に、ロング前日という認識で行きたい。

山川 日程を固定しない議論を希望する。基本的にはロング前日というような言い方にしてほしい。観客が多ければOKという程度にしておけばいいだろう。

【運営の在り方について】

- 平野 インカレロングは都道府県協会にお願いして運営することがある。例えば、嶽山でのインカレでは大阪府協会と一緒にやっていた。そのような場合、スプリントをどのように運営していくのか、また、お願いして断られたらどうするのか、現実にはあり得るので、そういったことも考えた方がよいと思
- 宇井 運営のリソースが問題になるということである。基本的に誰にどういう依頼をしようか。
- 大西 依頼するよりも、インカレスプリント実行委員会を立ち上げた方がいいと思う。運営自体はインカレロングの実行委員会と協力することとして、その人たちが責任を持つようにすればよいだろう。ロング実行委員会にお願いすると、断られる可能性がある。
- 宇井 それでは、インカレロング実行委員会とは別に実行委員会を設けることを決めた方がよいだろう。
- 山上 「そういうこともある」としたほうがよいと思う。今回の場合、一緒だったメリットの方が大きい。
- 山川 会計処理の面からもメリットが大きい。仕事量が増えるだけで、宿泊費・交通費はほとんど変わらない。
- 山上 インカレスプリント実行委員会を作ると決めた場合、インカレロングの実行委員会を分けるのは面倒くさい。ミドルとリレーのように合流できるときは合流したいが、分けなければいけない時もある。選択肢を持つことは大事だが、そこまで決めてしまわないほうがよいと思う。
- 大西 それならば、インカレロング・スプリント実行委員会という形にすればいいだろう。
- 山上 その方が実際のいいと思う。
- 山川 (実行委員会を分ける)メリットもある。継続性を第一に考えた場合、テレインがどうしてもないとき、ロングとは別の場所で開催するしかないが、ロングとスプリントの運営を1つの実行委員会に課されるのは厳しい。たださえ実行委員会の人員を集めるのが大変なので、幹事会で決済できる枠でプロにお願いしてやってもらうことになるが、その時に役員はいないので、公正さの確保のために、当日の立ち番の役員にある程度の学生を動員するのがいいと思う。陸上の世界では普通に行われていることである。OBからは学生の間は競技に専念させたいと反対する声があるが、スプリントに関しては、(他の種目とは)趣旨が違うので、公正さの面から、学生の動員はありだと思。継続性のためなら、想定されることとして議論した方がよい。
- また、継続性について考えると、渉外が大変である。スプリントは渉外上のハードルがとても高い。公園では、人が走って通行したときに衝突の危険などがある。
- 山上 個人的には、学生の動員もよいが、それよりも中心人物を見つけられるかどうかの方が大事である。今回のインカレでは私が中心となったが、1~2人の中心人物が欲しい。
- 山川 1~2人では厳しい。本来は重要な部分は5人くらいで行う。3~4人くらい経験者がいた方がよい。中心人物を経験者がまわりから支えるような形である。
- 田村 中心人物というのは1つの大会における中心人物なのか、それとも継続していく上での中心人物なのか。
- 山川 継続していくための将来像を描いていくことが必要なので、継続して関わっていく人物が必要である。
- 五味 インカレスプリント実行委員会の中に山上・実行委員長のような方に入ってもらい、ロングの実行委員会と話し合いながらスプリントを準備していくものとなると、ロングの実行委員会がスプリントも実施した今回のインカレとは、運営の形が異なっていくということになるのだろうか。インカレスプリント実行委員会を設けてロング実行委員会と協力していく形なのか、今回のようにインカレスプリント・ロングを1つの実行委員会運営できるという前提で準備を進めていくのかどうかで、(話が)変わってくると思う。
- 山上 それは実行委員会の性質次第だと思う。今回のように学生OBで構成される実行委員会なのか、それとも地域クラブや県協会が母体なのかによって、それが変わってくる。今回はトレイルの場合は、トレイルの協会の山口氏から、「インカレトレイルと名前は付けないが、(3日目に)トレイルを行い、そのついでに実行委員会に協力する」というお話があり、実際に数人にインカレロング実行委員会に入ってもらった。その結果かなり助かった。(ロング・スプリントを1つの実行委員会で実施する)今回のような形もありだと思うが、インカレスプリント実行委員会が別にできていても、どの団体が(インカレロングの運営に)加わってくれるのであれば、ロングの実行委員会としてはうれしい。
- 齋藤 (実行委員会を構成する)人を集める中心人物や、立案者となる担当理事を作ってしまうのが一番いいと思う。
- 山川 ミドル・リレーは一緒だが、ロング・スプリントは同じ日に開催しても、競技の仕組みや渉外のアプローチは違うので、それぞれ別の担当理事が立案者となり、ロングの実行委員会と相談したりすると、あと、ロングやミドル以上に、外からの経験者のアプローチが多面的に必要なので、山上・実行委員長や大西・技術委員長など数名に関わってもらいたい。
- 齋藤 継続性という話においては、一般クラスやチャレンジクラスについて学生側では決めずに、実行委員会で決めてもらった方がいいと思う。
- 佐藤 確かに、スケジュールの都合などがあるだろう(から、そのようにした方がいいだろう)。
- 山川 (3月の)実験大会の時には、個人的な発想でやったが、チャレンジクラスや一般クラスはいらなくて、その分の赤字は幹事会で通じるのだから、参加費収入で補てんするような大会の枠組みにするべきではないと思、企画した。
- 宇井 確かにインカレスプリントでは、一番大事なのは、観客がいる中で走る競技でのチャンピオンを決めることだから、エリート以外のチャレンジクラス・一般クラスは別物として自由にやらしてもらえばいい。モデルイベントとの兼ね合いでそれらを設けることができないと実行委員会が思えば、やらなくてもよいだろう。
- 山川 あと、足りないのを助けてほしいとなったら、幹事会で議論すればよい。その年の範囲内で決済はできるだろう。

佐藤 例えば、「一般クラスを作ってほしい」などと決めてしまうと、かなり厳しいことになるだろうから、それは実行委員会に任せ、「出来ればチャレンジクラス・一般クラスを設けてほしい」とお願いすることでもいいだろう。また、スプリントをロングの実行委員会と一緒にやるかどうかは、担当理事がやることなので、規定しないほうがいいだろう。

宇井 学生の意見としてチャレンジクラス・一般クラスは設けた方がいいということが出ているので、あった方が望ましいかもしれない。

山川 重要なことは担当理事が決めるということにしたい。

大西 チャレンジクラスを作ってもよいが、今回は赤字になった。継続性の議論のためにも、赤字になった時の措置について考えておいた方がよい。

山川 今回は学連の組織で運営したのだろうか。

山川 ロングとしては初めて、学連の組織で運営した。今まではプロや地域クラブなどの団体に丸投げしたのがほとんどだった。

山上 福井県協会には協力してもらったが、運営母体は金沢大のOBを中心とした実行委員会である。

大西 問題として、た分を地域クラブに負担させるのは筋違いだと思うので、単独で赤字になったときは日本学連がその分を負担するような決まりを作った方がよい。

山上 ロングにはそういった決まりはないのだろうか。

大西 それはない。ただ、学生が全員やってくるので、大会としては参加者が増えるメリットがある。

山上 ただ、マップに支払う調査代は賄えない。

大西 そもそも大会を開催する上で地図調査代はかかるので、そのあたりは大会運営者の考え方の問題だと思う。

山川 そもそも秋にロングを開催しているようになったのは、ロングはミドルほど地図精度を要求されない。仮に3月にロング・リレーでやった場合、調査範囲が広いために時間的・予算的に見合わないからである。

また、ロングとミドルを交換してから、ロングのために地図を新規作成したのは、昨年が初めてであり、それまでは過去のデータの上書きや拡張しかなかった。ロングはもともと金銭的に厳しいが、役員は少なく済むので、秋に移した。地図に関しては過去資産を活用しようとした大枠があったが、インカレ参加者が400人にまで落ち込んだところは、それでも予算的に厳しかった。昨年や今年もマップに十分報いておらず、去年の(マップの)西村氏の日当は1万2000円くらいであった。「航空レーザー測量のデータがあるため、いい地図が作れる」と始めたものの、役員が有料だったので、結局そうなった。ただ、今年に関しては違う問題がある。

今後ロングは、地図を1から作成するのは厳しく、既存の地図を拡張するのが基本路線である。今までは長野などに持ってきたときも、参加者が400人の時も、全部ゼロ会計(すなわち<収入>=<支出>、残金がゼロとなる大会会計)であった。ただ、今年は参加者が多かったのが、福井県協会にはお世話になった分、金銭的に報いるつもりであるが、実質はインカレ実行委員会がやったのだが、それによって学連にお金がかかることはロングに関してはあまり考えていない。ただ、(赤字を)補てんしたことはないし、これからも考えていない。

大西 ロングの地図をプロマップが作り上げたのは昨年度が初めてであり、普通のクラブチームが大会を開催するとしても、すべてのエリアをニューマップとすることは最近ではなかなかないし、調査をプロマップにお願いすることもなかなかない。嶽山の例では、3分の1~半分をプロマップ、残りを自分たちでそれぞれ調査していて、すべてプロマップが調査した場合より、お金がかかっていないと思う。

これからどうしていくかはわからないが、とりあえずスプリントだけに関して言えば、その赤字は補てんすべきだと思う。実際今の学連の資産の黒字は、すべてインカレの黒字から来ているようなものである。多少そこで補うのはありだろう。

山川 そもそも全員参加ではない。予算に対する基本思想が違うので十分考えてもいいと思う。

大西 あと、実際に走った人数は200人もいない。(参加者が)700人いるので、チャレンジクラスの出走者がもう少し増えれば、(予算的には)黒字となって大丈夫だと思う。

山川 もう少しかっこよくチャレンジクラスを行えば儲かるような気もする。

宇井 初めてだったこともあり、「モデルイベントに入るので、今回は参加しなくてもいいだろう」という人が多くいたと思うし、今回のアンケート結果を見ていると、「チャレンジクラスが面白そうだった」という意見も結構あるので、チャレンジクラス参加者はこれから増えると思う。一方、インカレプリントで出た赤字は学連会計で補てんしなければいけないと思う。

佐藤 (赤字補てんは)正しい学連会計の使い道だと思う。黒字がたまってしまうとしょうがない。

宇井 スプリントの普及につながるお金の使い方だろう。

佐藤 金銭面では大丈夫そうなので、あとは継続性の問題だろう。運営のマンパワーについても担当理事に任せておきたい。

大西 人員整理で人手が必要ならば、学生に声がかかるだろう。

山川 学生が当日役員を務める場合があることを前提としたほうがよいだろう。

山上 渉外的な都合で、チャレンジクラスの時間でも人員整理は必要だが、多くはいらない。

宇井 エリート以外なら誰でも運営はできるであろう。運営に駆り出される可能性があることを確認しておけばいい。

佐藤 人員整理はなるべく上級生が行うのがよい。一般クラスの人はその可能性があることを一言書いておいたり、渉外に告知したりすれば大丈夫だろう。

齋藤 現実的には開催地の学連の幹事や渉外が対象となるだろう。

山川 他の地区より1~2時間早く来てもらう必要がある。そうなるだろう。

山上 何か特典があると嬉しいだろう。  
 齋藤 チャレンジクラスを無料で走ったり、全ポスト図をプレゼントするなどがあるだろう。  
 佐藤 そのあたりは、こちらで細かく決めることではないと思う。  
 宇井 実行委員会に決めてもらいたい。  
 山上 そういうことがOKだという風にしておけば、やりやすいと思う。  
 佐藤 先に、それ(当日の運営に学生が関わることについて)がOKなのか、学生に聞いておきたい。  
 山川 他の競技では普通だが、オリエンテーリングにはなじみのない文化なので、聞いた方がよいだろう  
 齋藤 ロング再競技では学生が運営をしたことがあったが、それに比べれば労力は大したことではないだろう  
 山上 仮にプロの方に、運営を含めてすべてをお願いする場合、その経費はどのように見積もるのだろうか。今回のインカレロングでは、アドバイザー候補の選定が難航し、西村氏(NishiPRO)にお願いすることも一時考えられた。しかし西村氏はプロなので、地図以外の部分が無報酬であるのはいけな  
 齋藤 いと思う。向こうから提示された金額をそのまま飲むのか、それともある程度の請負金額や規定をこ  
 ちらで決めておけばよいのだろうか。  
 齋藤 それはその年の実行委員会の予算案がどのくらいできあがっているかどうかに思う。あらかじめ決  
 める話ではないと思う。  
 大西 大赤字なのにお願ひするのも変な話である。  
 山上 ただ、補てんされる場合は話が別である。その場合、歯止めをどうかけるが問題である。1回1回  
 の予算が出されてから決めるのか、おおむねこのくらいをベースとするというのがあるべきなのか。  
 大西 現状として、予算案は提示されていない。  
 山川 ただ、裏では話し合っている。ロングに関しては、富士でも丸受けしている。スプリントに関しては、  
 ロングと一体ならば次もその丸受けでよいと言っているが、ちょっとかわいそうだと思いがあって、山  
 上 実行委員長は発言したのだろう。  
 山上 今回の地図作成費25万円は、もともと西村氏に、地図作成費と運営費の見積もりをお願いして、  
 齋藤 それをベースに三上氏に払うという形にした。  
 齋藤 赤字を補てんすることは全体の会計としては許されるのだが、方針や限度額を決めるべきだ。初  
 めから20万円の赤字を出してもよいというのはおかしい話である。  
 山川 今回のように報告をつけなくてははいけない。今回は20万円はもらっているが、赤字分という決議  
 だったので、井戸・会計には無理をいって決算書を作ってもらった。ただ、ロングとともに丸受けした  
 とき、スプリントのみ切り分けて決算尾を作るのは、結構面倒な作業なのである。  
 宇井 補てんするとしたら、スプリント単体の会計を出してもらった方がいいだろうか。  
 山上 そうした方がよいと思う。  
 山川 (現状として)「渉外が固まって大会のかたちが見えてきたところで予算案を出してもらい、事情をわ  
 かけている人が検査して、補てんを認めてもらう」という形をとるしかないだろう。チャレンジクラスがう  
 まくできるのなら丸受けでも回るだろうが、厳しいのならその赤字を補てんするしかない。きっちりし  
 た経理報告を求めて、きっちりした赤字分のみ補填するようにしてもよい。  
 齋藤 大枠が決まってからの話になるが、このくらいの予算なら学生で組んでしまってもいいのではない  
 だろうか。交通費や宿泊費は変動してくるが、参加者は学生全員ではないし、今回の試行大会でた  
 たき台はできている。  
 山上 個人的にはいいと思う。主催者側が組んだ予算を主管者側が呑めるかどうか問うのは、一般的な  
 大会ではあることだ。  
 山川 その時の主管者に、渉外が大体終わったところで予算書を出してもらい、赤字の見通しについてみ  
 て、その時の幹事会で決済してもらおう。  
 齋藤 いや、予算はこちらで作る。  
 山上 それはありだと個人的には思う。「想定される赤字額プラス5万円くらいはOKとする」というような予  
 算が提示されれば、こちらとしても安心感がある。今回は地図面積が狭かったため予算的に助かっ  
 ただけであり、当初の予定通り広範囲を調査していれば、大赤字であった。  
 齋藤 現状として、プロマッパーが何人か出てきてようやく仕組みが出来てきたところなので、プロの意見  
 を呑むしかないと思う。スプリントくらいの規模ならばできると思う。参加費も今回と同じくらいになる  
 だろうし、人数も今回より減ることはないと思うので、収入の見込みはすぐ出てくるだろう。あとは、ス  
 プrintの普及状況によるが、それは学連の努力次第だろう。スプリントが普及していけば、チャレン  
 ジクラスの参加者が増えるだろう。支出は難しいところである。  
 山川 今回は全部一緒にしているのでよいが、ロングと別開催となった時は備品代・交通費がすべて会  
 計に乗っかってくる。  
 山上 もし別の要素があって上乘せたいときは、それを出してもらって、仕方ないので出すものとするの  
 か、それとも、「そこにお金を使わなくてもいいのではないだろうか」として、補てんもすべて青天井に  
 しないような仕組みがあった方がいいのではないだろうか。今回ならば、ディスプレイの代金は1万  
 円だったが、これが5万円だったら、いらぬということにしてもよいだろう。  
 齋藤 ああいう資材は学連の費用で一度買ってしまってもいいのでもないだろうか。ミドルの時は大変  
 だった。  
 山上 ただ、郵送料だけでレンタル代を上回ってしまう。  
 齋藤 赤字ありき(の発想)なので、仕組みとしては、これまでと同じではいけないと思う。  
 佐藤 ある程度予算を提示して、このくらいの幅でやってくださいということをお願いするということだろう。  
 齋藤 赤字になって補てんするのはしょうがないとしても、初めから20万円の赤字を出してもいいという  
 発想は違うと思う。  
 山川 自分がうまくやれば儲かるイベントだと思う。うまくいかないときに、渉外的に全部丸抱えするのが  
 嫌だと思っている。

齋藤	それは5月の時点で大西さんも言っているし、僕たちもそう思っている。赤字補てんは方向性が出ているし、今日全部決めなくても次回幹事会でしっかり話してもいいと思う。しっかり考えきってもらえばいいと思う。まだ1年あるので、細かいことは今年度中に決めればいっただろう。
山川	予算を出してもらって、状況を提示してもらい、基本的に赤字を丸呑みさせないことを決めればいっと思う。
宇井	基本的には赤字をすべて学連で負担することはありえない。地図作成費などのお金のかかる部分をどの程度切り詰めてもらうかは、今決められることではなさそうだ。幹事会決済で補てんするつもりはあるということにしておきたい。
山川	赤字が総会での決済が必要な(20万円を超える)ほど大きくなることはないと思う。
佐藤	ある程度枠組みをこちらで作って渡すという感じでいっただろうか。赤字の上限を示したものを作りた
山川	ポイントは継続性である。加盟員にわかるようにしてほしい。
佐藤	いろいろ考えて、継続性を意識したものを作りたい。
宇井	継続性については、お金のことも運営リソースのことも、大まかな枠組みとしてはよいだろう。→次回幹事会で詳しく議論することとなった。
	<b>【競技性・公正さについて】</b>
山川	競技性・公正さを完全に追求するは無理であり、最大限努力すればいいと思う。ある程度は実行委員会の判断に任されるが、すべてのレッグが走るだけの単調なものでは嫌だろう。
宇井	継続性を保ちつつ、競技性を落とさないようにしていきたいところである。
山川	コントロールング制度については、ロング・ミドルのアドバイザーのアプローチも多面的にかかわってこないといけないので、文章化していく必要があると思う。
山上	アドバイザーは技術委員会が出すことになっているので、すなわち日本学連が出すことになっているので、スプリントをやってくれそうなそこそこ近くにいる人をアドバイザーに任命すればよい。アドバイザーのコーチは日本学連が持つはずなので、そういうことも可能であろう。フォレストとスプリントはだいぶ性質が変わってくるので、場合によっては、ロングとは別に、スプリントのアドバイザーをつけることも必要だろう。今回はスプリントに関しては試行大会だったので、スプリントのアドバイザーはほぼロングのアドバイザーであり、ロングに影響しないかどうか置いう観点で見てもらった。
山川	イベントとマップとコースについては、できれば別の人物が務めるのがベストである。3人置くのは厳しいだろうが、IOFでは地位のある人が4つのベクトルから意見を言う構造になっているようだ。
	<b>【スプリントの実施規則について】</b>
大西	ベースとなるものは6月にできているので、そのような文面でよければ、とりあえずいっただろう。そんなに具体的なことは書いていない。「こういう形にしていこう」という、メッセージというか申し合わせのような説明は必要である。いきなり規約だけ出して決議をしようとするのは変であり、幹事会で議論したことを総会の場で説明したり、あるいはそれを事前に説明して意見を募集してから、総会でインカレスプリントの開催を決議すればいいと思う。
山川	短く言えば、ロードマップを作るということになる。大西・技術委員長から規約案を出してもらい、幹事会でロードマップをあげてから、決議すればいっただろう。
宇井	総会では時間があまり取れないと思うので、事前に今日話し合ったことを周知しておいて、意見を一度集める期間を設けた方がいいと思う。
山上	人数の規定は必須である。今回の人数(男子60、女子30(実際の出走は19))が多かったのか、それとも少なかったのかどうか聞きたい。あと、試行大会の割に参加費が高かったという意見があった。
五味	女子の出場が少なかったのは、参加費ではなく意識の問題と思う。インカレスプリントの試行大会が、もし第1回大会だったらもっと出場した可能性があるし、そもそもスプリントという競技に対して、女子の中でどのくらいの認知度や意識があるかどうかによって、30人の枠が埋まるかどうかが決まると思う。「今回枠が埋まらなかったのは参加費が高かったから」という理由で安易に数を決めるのはよくないと思う。
山上	女子30としたのは、ミドルの選手権Aの数を参考にしたのだが、20にしてしまうと学連によっては数がとても少ない。スプリントという短い距離なので、もう少し増やしたいと思って設定した。
大西	人数的には男子60・女子30はいいと思う。
宇井	今回はインカレとしてスプリントを走るという意識があまりなく、どういものなのかわかっていなかった人も多かったのだと思う。
山上	個人的にはこれくらいがいいと思う。運営としてもこれくらいがちょうどよく、少なすぎると寂しいし、多すぎるとつらい。このまま開催してみて、状況が変わらなければ考えた方がいいと思う。
佐藤	試行大会だから出なかった人もいると思うので、60・30でやってみた方がいいと思う。
山川	それならば、規則案を出してもらい、ガイドラインやロードマップのようなものを幹事長・副幹事長でまとめてもらい、総会で決済すればいっただろう。あとは個別の問題とすればいい。
宇井	ただ渉外の問題は未知数である。これから大きな壁が出てくることも十分に考えられる。
宇井	先に幹事会で出た話をまとめて、規約案とともに展開して、レスポンスをもらい、総会に臨んで決済を取るような流れで行きたい。細かい話はその後詰めていきたい。
	<b>【テレインの選定について】</b>
山川	ロングの会場のテレインがすごくつまらないが、10km移動すればもっとましなテレインがある場合、学生はどちらを選ぶのだろうか。もし別会場となった場合、役員を増やさなくてはいけないうえ、開会式やロングのモデルイベントがなくなってしまう。
齋藤	どのくらいつまらないのかどうかによると思う。

野本 山川 齋藤 大西	つまらなさや距離との兼ね合いとなるが、基本的には移動した方がいいと思う。 私は外に出てやるべきだと思うが、山上・実行委員長は会場でやりたいという考えを持っている。 結局はトレイン次第であり、実行委員会にお任せするしかない。それはその時に話した方がよい。 それ次第では参加者が激減して問題が出てくる可能性があるかもしれない。もしかしたら、今回観客が多かったのはモデルイベントがあったからなのかもしれない。
齋藤 山川 齋藤	3～5年くらいは近くで開催して、スプリントの素地をしっかりと作った方がいいのかもしれない。 アンケート結果を見ていると、「コースがつまらない」という意見が結構出ている。 日本代表のある関係者には、「(今回のコースでは)結局、走力で勝負ができてしまう」と言われたが、それはしょうがない。ただ、それでも(学生側の)賛成は多かったの、私はびっくりした。
大西 糸井川 宇井 山川	結果を見ると、タイム差がついていて、実力の差が出ている。 秒差の争いとなっているのはいいことだと思う。 実行委員会から言われれば、しょうがないと思う。 もし、移動する場合は観客が600人から300人に減ることを覚悟しなければならず、(会場開催を)強行する場合は競技性に目をつぶるということになる。
宇井 佐藤 齋藤 山川 杉村 山上	それよりも、スプリントが定着するまでは継続性を重視していくべきだと思う。 競技性が劣ったとしても、最初の数年くらいは会場で開催してもいいだろう。 (障害物を設けるため、トレイン内に)柵やコーンを置いてもいいだろう。 学生の動員を考えている理由として、マンド・コントロール(有人のポスト)と障害物作成がある。 有人ポストは海外ではそうなっている。ポストから2mくらい離れたところに人がいる。 規則ではそうなっている。
休憩(16時17分～16時27分)	
<b>4.大学院生の学連登録について</b>	
<p>前回総会で話し合った事項について、幹事会としての方向性を示した。その結果、加盟登録については、新たに高専専攻科学生については、大学3・4年相当であることを理由として認め、それ以外の大学院生・聴講生・研究生については認めないこととする方針となった。特に大学院生の加盟登録については、「大学院生がインカレチャンピオンとなった場合、気持ちよく認めることができない学生が多い」ことが理由としてあげられた。</p> <p>12月に開催される臨時総会では、事前にこのことについて各加盟校に周知し、議論することとなった。</p>	
<p>○前回総会において、臨時総会までに各大学から意見を求めた内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟登録の対象をどこ(大学院生・専攻科学生・聴講生・研究生)まで含めるべきか。</li> <li>・もし大学院生の加盟登録を認める場合、大学生とは分けるべきなのか。また「大学院生のインカレ出場は一般クラスのみ認める」という制限を設けるべきか。</li> </ul>	
佐藤	【専攻科学生の加盟登録について】 現状、加盟登録ができるのは大学生と短大生、高専4・5年生のみとなっているが、専攻科学生については、(大学3・4年生相当なのだから)普通の大学生と変わらないような気がする。
五味	大学院生を認めるかどうかと専攻科学生を認めるかどうかは、年齢的に別問題だと思う。大学院生が認められなかった場合でも、専攻科学生は認めるという選択肢はあると思う。
佐藤	専攻科学生の加盟登録については、(幹事は)どのように考えているのだろうか。
宇井	現在のところ該当者はいないので、今まで問題にならなかったのだろう。
高橋	昨年度までは高専生の登録があったが、その学生は今大学へ編入して大学生として加盟登録をしている。
杉村	高専で加盟登録した後、専攻科学生になったら、3年目・4年目としてよいだろうか。
佐藤	いいと思う。学連登録は2年続けてしているのだから、その上での3・4年目となるだろう。ただ、専攻科学生になってから、オリエンテーリングを始めた場合はどうなるのだろうか。
杉村	それは大学院生の議論の後に決めることになるだろう。
佐藤	ここでは専攻科学生の間についてだけ考えたい。
高橋	今調べたところ、専攻科は東京理科大などにもあるようだ。このうち東京理科大の専攻科では、大学卒業者を対象とし、中学・高校の数学の教員免許の取得を目的としている。
杉村	大学卒業後ということは、大学院生と同じ扱いとなる。
五味	今議論している「専攻科」とは、名前は同じだが、別物である。もし不具合が生じるのなら、(例えば大学院生の加盟登録が認められない場合は)「高専の専攻科」に限定しておけばいいと思う。
佐藤	ここでは、「専攻科学生」というのは、「高専に在籍する、大学3・4年生相当の学生」としたい。専攻科学生の加盟登録は認めるという方向でよいだろうか。 →全会一致で幹事会としては認める方向となった。
佐藤	【聴講生・研究生の加盟登録について】 次に聴講生について考えたい。
杉村	正規生ではないから、認めなくてもいいだろう。 →特に異論はなく、幹事会としては加盟登録を認めない方向となった。

佐藤	<p>研究生についてはどうだろうか。</p> <p>木村・理事が前回の総会后に「スウェーデンからの留学生の加盟登録を認めてしまうと、抜かされてしまう」と言っていた。</p>
齋藤	<p>木村・理事がメーリングリスト上で発言していたことだが、「その人がインカレチャンピオンになった時、みんなに認められるのかどうか」が、大学院生を含めて問題だと思う。</p>
杉村	<p>非正規生は入れない方向でいいと思う。</p> <p>→特に異論はなく、幹事会としては認めない方向となった。</p>
杉村	<p>【大学院生の加盟登録について】</p> <p>(大学院生の加盟登録を認めた場合の)メリットとデメリットを明らかにしたい。</p> <p><b>○加盟登録に大学院生を加えた場合に考えられること</b></p> <p><b>メリット</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技人口自体が増えることが予想できる</li> <li>・選手権クラスは登録から4年以内</li> <li>・大学2年生以降で始めた人はインカレ出場のチャンスが少ない。加盟登録を認めることで競技を4年間にわたって多少やりやすくなる。</li> <li>・大学院生を認める→加盟登録5年目や6年目の競技者も出場する</li> </ul> <p><b>デメリット・課題など</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院生が学生チャンピオンになり得ること (大学院生の競技者としてはメリットだが、大学生としたらデメリットになる。公平感やみんなが認められるかどうか疑問である。)</li> <li>・運営者の数、オフィシャルが減る。</li> </ul>
杉村	<p>大学院生というのは大学生時代から始めた人だけを対象にするのだろうか、それとも大学院入学後に競技を始めた人も対象にするのだろうか。また、その区切りはどうするのか。例えば、大学院生の中には、博士課程まで進む人もいる。そうすると、5年間大学院にいることになり、大学院生になってから始めても4年間は加盟登録することが可能である。</p>
佐藤	<p>その場合でも、加盟登録を認める期間は4年間だろう。</p>
齋藤	<p>極端なことを言えば、高校時代まですごく早かった経験者が、大学入学後しばらくやるつもりがなかったのに、「やっぱりやりたい」と言って、3年次から加盟登録することも考えられる。それを差別することはできない。</p>
杉村	<p>区切りの有無にかかわらず、そこを明確にした方がよい。あいまいにしないほうがよい。加盟登録の範囲と、加盟登録を認めた場合の条件のどちらを先に考えるべきだろうか。</p>
宇井	<p>まずは大学院生の加盟登録を認めるかどうか決めていきたい。</p>
大西	<p>大学院生というのは現実的に考えれば、修士課程の学生であり、登録期間は2年間だろうから、区別の必要はないと思う。現実的に考えれば、大学院1年目の人は加盟登録1年目などとされると思う。ちなみに、ユニバーシアードでは博士課程の大学院生も参加可能だが、28歳以下という年齢制限が設けられている。</p>
佐藤	<p>インカレ出場資格は29歳以下とされている。加盟登録についても、そのようにしてしまってもいいのだ</p>
宇井	<p>上限は設けた方がよいと思う。</p>
宇井	<p>幹事がどう思っているのかわからないので、意見を聞きたい。</p> <p>→大学院生の加盟登録を認めるべき: 8、認めないべきでない: 4</p>
佐藤	<p>多数決で決めることではないと思うが、この人数ではきわどい。認めるが多いから、条件を付けるかどうか考えたい。例えば、大学院生としての登録期間に制限を課すなどである。</p>
今井	<p>学部生のうちに加盟登録した人のみ認めるという制限が考えられるだろう。</p>
杉村	<p>制限は特にいらぬと思う。</p>
五味	<p>その場合、2・3年生から始めた人に限らず、1年生から始めた人でも、大学院生になった時、学連登録5年目として学連に登録できることになるのだろうか。</p>
佐藤	<p>そういう規定とした場合、そのようになる。</p>
五味	<p>始めた時期にかかわらず、一般クラスには大学院生は全員出られるということになる。幹事長に大学院生がなる可能性があるということにもなるだろう。</p>
宇井	<p>加盟登録ができるということは、そういうことになる。</p>
野本	<p>今の規定では、9月卒業の場合は春インカレには出られないということになるだろうか。</p>
佐藤	<p>現在の規定ではそれについて想定されていない。</p> <p>仮に大学院生の加盟登録が可能ならば、5年目以降も加盟登録することができ、インカレの一般クラスも出場することが可能である。</p>
大西	<p>ただ、その場合はおそらく特別表彰となるだろう。一度社会人になっても、大学に入りなおせば加盟登録ができる。</p>
山川	<p>かつてそのようなことを行った人がいる。一般クラスでダントツの成績で優勝したが、特別表彰され</p>
宇井	<p>そうすると、インカレ一般クラスの様相が変わってくる気がする。理系では大学院に進む人が多い。ただ、加盟登録やインカレ出場を望むかどうかはその人次第である。</p>
新粥	<p>私の大学には5年くらい前に、留年生で(インカレミドル)Aエリートになった人がいた。それが認められているのだから、大学院生を認めてもいい気がする。</p>
五味	<p>しかし文系では大学卒業後そのまま就職する人が多いので、2年生から始めた場合、4年目はな</p>

齋藤	「大学生」という(身分の)概念と「4年間」という(加盟登録)年数の概念を尊重するのかの選択とな
佐藤	入学年度から4年以内としてしまえばいいのだろうか。
五味	そうすれば全員同じタイミングで終わることになる。
大久保	加盟登録が5年目となった場合、インカレでは選手権の部に出場できないうえ、一般の部に出場しても参考記録として扱われ、(上位に入っても)特別表彰となってしまう。メリットとしては、JOAの競技者登録を自分で行わなくても済むことぐらいだろう。
大西	3000円かかるので、学連登録の方が高い。
五味	ただ、選手権Bの枠を増やせる。
橋場	今気になっているのが、大学生と大学院生をまず分けて考えた場合、例えば医学部(や薬学部)などでは6年間登録でき、それ以外は4年間で打ち切っている。医学部が得をする2年間はどうか考えているのだろうか。そこで分ける必要はあるのだろうか。
杉村	現状として、加盟登録という意味でも、4年というのが(区切りとして)暗黙の了解となっていると思う。そのため、今のところ、特に問題が起きていないのだろう。
今井	5年目で走りたい人はいないのだろうか。
大西	昔はいたような気がするが、全員ではないと思う。
宇井	医学部などの学生が3年生から始めた場合、(現行の仕組みではインカレには)4回出られるということになる。
高橋	薬学部が6年制となったのはわりと最近のことであるから、それ以前に制定された規約ではそれが反映されていないのだろう。
五味	全部対応するには明文化しないといけない。
佐藤	(加盟員資格を)入学年度から4年以内とすれば、医学部や薬学部の人も基本的に大学4年生までしか登録できない。
宇井	そうすると、留年生も認められなくなる。
五味	大学2年生から始めた人も大学4年生までしか加盟登録できない。
系井川	話がだんだんと制限する方向へ進んでいる。
佐藤	いろんな話がたくさん出たので、もう一度意見を聞きたい。 →大学院生の加盟登録については認めない方向となった。(大学院生の加盟登録を認めるべき: 0、認めるべきでない: 12)
杉村	認めない理由を整理しよう。もとをただと、2・3年生から始めて、インカレの選手権に出られるチャンスが減るのはよくないところから(議論が)始まっている。
山上	実行委員会をやった立場として言えば、「大学院生を学生チャンピオンに含めるかどうか」、「(加盟登録できる年数として)4年間を確保するか」の2点以外は正直大した問題ではないと思う。「競技人口」とか「一般クラスの特別表彰」といった、他の問題は小さいことだと思う。
齋藤	そもそも、インカレとは学生チャンピオンを決めることが目的であり、他の構成要素はいくら選手権と言っても、おまけのようなものである。
野本	総会の時にも言ったが、この議論は「大学院生はなぜ学生の選手権では認められていないのだろう」という疑問から始まっているので、「大学院生を認められるかどうか」が問題である。「インカレ出場のコツが少なくて」というのは、あとから出てきた論点である。
杉村	そうとなると、あくまでも学生の意見を聞きたいのだから、「大学院生を認められるかどうか」について加盟員全員から賛成か反対か聞いてははっきりさせればいっしょだろう。
齋藤	大学によっては理系が多いため、総会では意見が偏ってくる。アンケートを取るのなら、インターネットなどで個別に行うべきだと思う。
大西	幹事会が加盟員の代表だと思うので、ここでしっかり意思表示をした方がよいだろう。
野本	総会に向けて、幹事会での議論とその方向性を発信しないといけない。
佐藤	ここでの議論を踏まえて、部内で話し合ってもらうように周知したい。
宇井	選手権クラスについては、加盟から4年以内でも留年生などは認められないということになるだろう
大西	あと、今の規約を変える必要があるだろうか。現在、留年生の加盟登録は認められている。
佐藤	一つの案として出ただけであり、まだ確定とは言えない。
田村	全体にアンケートを取るときには、他の競技の学生のチャンピオンを決める大会では、どのように認められているのか知りたい人がいると思う。
野本	大学院生の加盟登録を認めている競技では、大学院生の加盟が大学生と区別されている。
齋藤	他のスポーツは関係ないと思う。参考にしたい人は自分で調べればよい。
田村	専門学校に加盟している学生については、加盟登録の対象に入れるべきだろうか。
佐藤	加盟自体が認められていない。規約外の学校の加盟に関しては、「大学等と同様の入学資格を必要とし、類似のカリキュラムを有する教育機関は、地区学連の承認をもって加盟校の資格を有し、その学校に正規生として在籍する者は加盟員となる資格を有する。(加盟に関する規則第4条)」ものとされている。
野本	幹事会としての方向性はいいのだが、その理由をもう一度まとめてほしい。実際、総会ではどのような議論の形をするのか。各大学の意見を聞くのか、それとも幹事会の方針に賛成できるか聞くべきだろうか。
大西	そもそも認めないのであれば総会で決めることはない。
齋藤	そして、その後どうするのか。意見を求めるのは各大学と加盟員全員のどちらがよいだろうか。
杉村	また、幹事会の方針に賛成できるかどうか答えてもらうべきなのか、それとも理由を含めて決めてもらうべきだろうか。

	→幹事会終了後に改めて議論することとなった。
佐藤	大学院生を加盟員としてを認めない理由として、認めたときのメリットよりデメリットの方が大きいからだということとしたい。
齋藤	みんなメリットとデメリットの内容を知りたいのだと思う。むしろ、大学院生をインカレのチャンピオンとして認めるには、心情的に抵抗があるのだと思う。それは、幹事会としてもあるし、全体としても感じられるということになるだろう。
佐藤	認めたくないという気持ちが幹事会にはある。 大学院生の加盟登録を認めないとしたので、「大学生と大学院生の加盟を分けて考えるかどうか」については、議論はいらぬということになる。
齋藤	加盟員に対して、「大学院生の学生チャンピオン」を気持ちよく認められるかどうか、聞きたい。 反対意見がある場合のみ、メールしてもらえばいいだろう。当日までに意見がたくさん来たら、今年度中に決めればよい。最悪、翌年度に繰り越さなければいいと思う。
佐藤	幹事会の方針に従う方向となった場合はスムーズなのだが、仮に認めようという大学や学生がある程度いた場合、幹事会でまた話し合わなくてははいけないと思う。今度の臨時総会で決まるのがベストである。 →幹事会の方針を臨時総会前に各加盟校に周知し、意見のある場合は連絡を入れてもらうこととなった。
	<b>5.インカレミドルのBエリートについて</b>
	大西より、インカレミドルBエリートの廃止について、加盟員を対象にしたアンケートの結果と、現在の考えについて説明があり、それらを踏まえて、インカレミドルの在り方について議論した。 その結果、選手権Bの廃止と、それに伴う選手権Aの出場人数の変更については、今回出された意見を各加盟校へ周知して、加盟員からの意見を求めることとなった。また、登録2年目以降を対象としたクラスへの新人の出場は認めず、一般の部上位クラスについては、それを望む声が少なかったため、設けない方針となった。
大西	昨年度第4回幹事会から議論が始まってこの議題の概要が分かっていると思うが、まずは話の経緯からおさらいしたい。 現在インカレミドル選手権の部には、選手権A・Bの2つがある。しかし、選手権という意味合いによるが、現実的に、選手権Bには選手権者がいない。また、かつては「選手権Aと同じコースを走る」というメリットがあったが、ここ最近では別コースとなり、速報などもなく、一般クラスの時間帯に出走している。扱い自体が一般クラスとほぼ変わらないので、選手権という名前を付ける意味があるのかどうか、疑問である。さらに、選手権Bがあるために、選手権Aの枠が少なく感じる。昨年度のインカレの運営者からも、選手権Bの扱いについては、将来への提言という形で述べている。 もともと技術委員会案は、「選手権Bを廃止し、選手権Aの枠を増やす一方、Bを目指している人のモチベーション守るためには一般クラスをレベル化するのがよい」というものだった。選手権A(男子50女子20)は、特に女子については、学連枠に枠を配分すると、それが相当少ない学連も出てきてしまうので、男子60女子30くらいとするのが、競争する上では適正な枠の数だと思う。トップと60番目とは(レベルの)差があると思うが、ある程度の人数を確保するという意味でも、選手権Aの人数を増やしていきたい。かつての予選・決勝方式では、予選の段階で実力で振り落とされていたので、A決勝の出場人数が少なくても問題なかったが、現在の仕組みでは、地区セレで振られる形なので、セレクションを通過するのが厳しいと思っている人が多いと思う。 インカレミドル選手権Bについて、アンケートを取った。数で決めることではないと思っているが、アンケートの感触としては賛成6割、反対4割であった。 細かい理由を見ていくと、賛成の意見では、「一般クラスとほぼ同じ扱いであること」が理由として多かったが、他にもさまざまな理由が挙げられていた。 賛成意見でもいろいろあり、私が納得できないものも多かった。私の見解として、選手権者を選ぶ選手権Aのみを残し、その中で競う枠組みを、ロングのように作るべきだ。かつては予選決勝方式だったので、現在のような枠組みができていたが、決勝一本方式ならば、ロングと同じ数とほぼ問題ないと思っている。ただ、ロングについては、「男子60女子40」よりは、「男子60女子30」の方が適正だと、私は考えている。 また、反対意見については、「モチベーションを維持したい」とか、「選手権Bを目指している人のために残してほしい」という理由が挙げられていたのだが、もう一つ多かったのが、「新人が目指すクラスとしてちょうどいい」という理由だった。個人的な見解だが、そもそも「(選手権Bは)新人が目指すクラス」という意識は意味がわからない。「選手権」という名前だからモチベーションが上がる」という意見が結構多いが、そのために選手権Bを残すのは違うと思う。モチベーションは与えられた枠組みの中で作っていくものであり、自分のレベルに応じたところで目標を設定し、それを上げていくというのが重要だと思う。「選手権Aを走れない人にとっては、モチベーションが上がらない」というような意見があったが、そうすると、一般クラスでも上位を獲れない人はどうするのだろうか。選手権Aに出ている、トップを取るの非常に難しい。 このアンケート結果を見ていて、私の考えが変わった。一般クラスの上位クラスについてだが、現在、「セレクションで選手権Aに選ばれなかった次の人が選手権Bに行く」という形になっている。一般クラスの上位クラスを作ったとしても、名前を変えるだけで、結局今の仕組みは変わっていない。

今考えている案は、「選手権Bを廃止し、一般上位クラスも設けない」というものである。ただ、一般クラスについては、現在の仕組みではLをひたすら分割する形となっているが、加盟員の増加により、出走者が多く、上の方の人だけが分散して表彰されているだけで、中間層の人が埋まってしまふ。特に男子についてだが、人数が多い場合には、いくつかクラスを設けて選択肢を設けるのがよいと思う。ただ、その場合、セレクションとかになると大変なので、自分で選べる形がよいと思う。今回の幹事会や臨時総会で決定するわけではなく、来年度のミドルに向けて決めていきたいということである。加盟校の渉外に向けても意見を出すつもりである。

#### ○今回の幹事会で議論した内容

- ①B決勝を廃止すべきかどうか
- ②一般クラスの在り方について
- ③Aエリートの数を増やすべきか
- ④新人の一般クラスへの参加を認めるべきか。

- 杉村 結局、大西・技術委員長がここで意見を求めたいことは、選手権Bを廃止すべきかどうかというのが一番のメインであるのか。
- 大西 あと、「一般クラスをもう少し増やすべきなのかどうか」である。特に、選手権Bのように地区セレを行わない形でカテゴリを増やすべきか、それとも今のように分割するのがよいのかである。また、選手権Aの枠については「男子60女子30」という案を出しているが、もし違った意見があるのならば、出してほしい。
- 齋藤 あと、幹事会としては4割の反対意見をどこまで重視したいかが問題となる。
- 【B決勝廃止の是非について】
- 村瀬 (今の仕組みでは)一度A決勝の人数が減ってしまうと、学連枠は取り戻しにくい、B決勝があることでそれを取り戻せるというメリットがある。
- 大西 そもそもその仕組みがおかしいと思っている。Aに出られるハードルが高く、Aの下の方とBの上の方で、枠の取りやすさが変わってきている。Aエリートの人数を、Bエリートの結果で決めることが矛盾していると思う。
- 齋藤 現在の仕組みを考えていた当時、「予選決勝方式では、決勝に残るのは男子40女子24で、一本化するとその人数だと少ない」という話にはなったが、現在の枠の数そのものに明確な根拠はない。男女の比率から見て、女子の比率が明らかに少なかったため、女子を20とした。また、当時のミドルセレでは、1年生でも速い人はみな通っており、またそれが目標となっていたので、そういうのが急になるのはよくないという意見がほとんどだったので、その名残として今の仕組みになった。当時のことを知る人間としては、予選決勝方式を知っている人間のための過渡的な仕組みなので、なくしてもいいと思うが、(選手権Bについては)今でも目標としている人がいるので、「その人たちの意見をどのように拾っていくのか」が課題だと個人的に思う。
- 山川 B決勝を決めたのは西脇・前技術委員長の発案であり、B決勝が枠に影響する形になったのもその案がもとだったと思う。
- 齋藤 Bが枠に影響した経緯はあまり記憶にないが、少なくとも学生の声ではない。  
あと、予選・決勝方式の時は、当日A-fi、B-fiともに表彰があった。(選手権Bを設けた理由は)事前の地区セレで落ちた人にもモチベーションを与え、当日まで保ってもらおうという意味合いだったと思う。
- 宇井 私個人としての意見だが、「選手権Bの結果で選手権Aの枠が取れる理由がよくわからないので、いずれは廃止した方がいい」と思っている。
- 【一般クラスの在り方について】
- 山川 かつてはMAクラスが8つあった時代があったが、(運営上は)大丈夫だった。
- 田村 クラスを選択できるというのは、長いコースと短いコースから選ぶということだろうか。それだと今と変わらないのではないのだろうか。
- 杉村 今のロングで行われているMUSとMULのようなものを、ミドルでも導入するということだろうか。
- 宇井 一般クラスについては、レベル別にしなくてもいいと思う。  
(ただ、もし一般の部に上位クラスを設けるとして、)例えば、一般クラスを4クラス分の人数がいて、上位クラス1つとそれ以外3つの同じレベルのクラスを設けた場合、上を選ぶかそれ以外を選ぶのかという話になるのか、それともレベル別に4段階に分けることになるのだろうか。
- 大西 例えば、MUL、MUS、MUBというクラスがあれば、申し込んだ人数を見て分割するというのが考えられる。
- 齋藤 ロングより競技時間が短いので、Bを廃止するのであれば、Aの人数を増やしてもよいと個人的に思う。
- 宇井 MUBクラスはロングでもあるので、ミドルでもあってもよいと思う。
- 宇井 一般上位クラスについてはアンケートを取っていなかったのだろうか。
- 大西 上位クラスについては一つにまとめられるような意見は出ていないが、どちらかというと必要ないという意見が多かった。みんな上位クラスに申し込んでしまうのではないのだろうか、とか、選手権という名前がなければ意味がないという意見が出ていた。
- 宇井 枠に関係ないのなら、上位クラスを設ける必要はないということだろう。
- 杉村 名前の影響は間違いなく大きいと思う。「選手権」とか「エリート」という名前の影響力はかなりあると思う。

大西 選手権という1番の人を決める特別なクラスが2つもあるのか、という疑問から(B決勝廃止の話が)スタートしている。私としては、名前がよくないと思う。

齋藤 当時、枠とか人数といった仕組みなどについてはしっかり考えたが、選手権という名前については深く考えていないと思う。もともとはA-final、B-finalという名前だったが、finalではないだろう、という理由からついている。選手権という名前に魅力を感じている人がいることは無視できないことである。

佐藤 (選手権という名前への)こだわりがあるのは今の現役だけなのだろう。

宇井 出場者が多いときは、クラス分けをしてもいいのだろう。  
→一般の部上位クラスについては、設けない方針となった。

**【新人の一般クラスへの参加の是非について】**

杉村 自分でクラスを選べるというのは、新人で選手権Aに落ちた人でも、上のクラスで上級生と戦いたいという人はそのクラスに出場する権利はあるのだろうか。

大西 今の仕組みでは新人は出られない。

山上 いや、その仕組みはないだろう。今回のインカレロングでは、「新人だが2年目以降のクラスに出たい」という人がいたのだが、それに関する日本学連の規約がなく、困った。(2年目以降のクラスに新人は出られないことは)要項には書いてあるが、それが何に基づけばいいのかかわからず、結局は実行委員会が判断している。要項の記載事項は実行委員会が決められているが、基本的に前年度を踏襲しているだけである。それについても、学連で対応を決めてほしい。

杉村 かつて、1年生でもMUBとかに出ていた人がいた。

大西 それはチェックしきれていないためである。チェックできた分については、例えば2012年度のロングでは前日に該当者のクラスを変更したことがある。

大西 FよりMULを走りたいというという感覚が私にはいまいまいわからない。出場はだめだと思う。

山上 おそらくセレクションに落ちた経験者などだろう。

齋藤 規約を作る意味はどのまであるのだろうか。一般クラスの話なので、要項の段階で通しても問題ないだろう。

山上 ガイドラインや申し合わせくらいは作ってほしい。ただ、実行委員会次第で変わり得るのは問題だと思う。

齋藤 そのくらいならばすぐ作れるだろう。

大西 1年生が2年目以降のクラスにたくさん出ていても、問題ないということだろうか。

齋藤 それがダメという根拠が欲しいということだろう。

山上 ダメならダメでよいのだが、それを実行委員会で決めなければいけないというのは嫌だということだ。作ってほしいというのが個人的な意見であり、報告書に書かれることになるだろう意見である。

齋藤 それは、担当理事などずっといる人が原稿を作ってほしい。

宇井 私の意見として、新人は新人クラスを走ってほしい。

大西 新人だったら、新人クラスでの入賞の可能性が高まって、そのほうが嬉しいと思う。

齋藤 あとでいい思い出となり、本人のためにも絶対なと思う。(新人が「2年目以降のクラスに出たい」と言うのは)中途半端なモチベーションである。

大西 選手権に通った場合はそれでうれしいだろうが、落ちて旧人と一緒に走りたいというモチベーションは、あまりよくわからない。

佐藤 新人の中で上位を取った方が面白いと思う。

山上 実際にあったのは、1人が経験者だからという理由で、もう一人は2年目だが去年登録していなかったたので、新人クラスに出にくいというものだった。

齋藤 後者については1年目に登録しなかったことが悪い。文句やわがままが出てくるので、選択肢はあまり与えない方がいいと思う。昨年のインカレミドルでも、典型的なものとして、「特殊事例があれば、前日に泊まらなくてもよい」としたが、就活しか認めていないはずである。

橋場 個人的に思っていたのだが、Bで枠が取れるという点に関しては、学連内で選手権Aで漏れた人でも、選手層の厚い学連にチャンスを与えるという点では意味のあることだと思う。アンケート結果を見ても、モチベーションが多かったようなので、私の考えがずれていたのかと思っていた。  
→学連登録1年目の新人が、登録2年目以降の加盟員を対象としたクラスに出場することは認めない方針となった。

**【Aエリートの数を増やすべきかどうか】**

大西 女子は20から30に増やすとだいぶ違うと思う。

田村 Aエリートの増やす目的には、枠の数以外に何があるだろうか。

大西 実力で決まっているのは仕方ないが、そもそも20人で競っていると、盛り上がりが少ない。

田村 真の選手権者を決めるのなら、今の人数のままでも変わらないと思う。そういうのを目的に考えている人がいるのなら、今の数で言っていると思う。目的が盛り上がりとかならば、増やせばよいが、人によっては選手権を真の選手権者を決めることが目的である。

齋藤 真の選手権者を決めることは枠の人数にかかわらず、出来ることだ。もし、選手権Bをなくす場合、選手権Aの女子20のままだと、枠の復活がすごく難しい。ただ、20だからこそ、Bにもあるというのがあると思う。実力者がいれば復活してくるから、選手層の厚さは絶対関係してくると思う。逆に選手権Bがなくなると、男女ともに枠の数が硬直化すると思う。枠の推移は今わからないが、今回決めなければならぬ話ではないと思う。

大西 20だったとして、(出場者上位半分の)トップ10に入らないと枠が取れないとなれば、かなり厳しい。

齋藤 結局、モチベーションの維持は気持ちの問題だが、そこが一番利害の出るところだと思う。

山川	(B決勝廃止を)決めた場合、それは来年から実施されるのだろうか。
佐藤	来年度のミドルからとなる。
宇井	Bエリート廃止してAエリートの枠を増やした場合、全体のエリートの人数は少し減る。また、エリートの数については、男子60女子30が妥当なのだろう。
橋場	Aエリート人数だが、ロングを意識して60・30にしたということだが、女子の数がロングより10少ないという理由は何だろうか。ないのなら、ロングと同じ人数としたほうが理由としてわかりやすいと思う。
佐藤	特にない。
宇井	一番納得してもらえるのは、男子60女子40かもしれない。
杉村	ロングの枠の方にもかかわってくる問題である。
宇井	30にしてロングの枠の数を減らすのは難しいので、ロングと同じにするのも一つの案である。
齋藤	女子の方が非常に緩いということはないだろう。冷静に考えて(問題なのは)加盟員数よりも実力のある人がどのくらいいるのかどうかであるが、見るものがそれしかないから仕方ない。
新粥	新人やモチベーションのため、という人をさらうには、もう少し男子のエリートを増やしてもよいのではないだろうか。例えば70にするとか。
山上	(ロングの人数は)正直多いと思う。今年は表彰式が遅かったことは別として、70にするとさらに20分遅れることになる。
五味	Bエリートを目指している人が、モチベーションを維持するためには、60のままでは、どうせ無理だろうと考えるだろう。
大久保	反対している人の意見をさらうという意味では、枠を少し増やした方がいいと思う。
齋藤	Bエリートを目指している人をさらうには、80ではたまたらんとする。Aの枠を増やすことでさらおうとしない方がいいと思う。本当にさらうのなら、併設の仕組みを変えないといけないうだろう。
杉村	そうすると、結局上位クラスを一般クラスに設けるということになる。
齋藤	ここまで意見が出たので、それを展開して、意見を集めた方がよいだろう。
糸井川	頑張ればいいだけの話だと思う。
大西	予選決勝方式だったころ、A決勝に残る1年生は1人いるかどうかだったので、1年生のことはあまり考えなくてもいいと思う。
宇井	枠を増やしてモチベーションを上げてもらうのはどうかと思うが、一つの意見として出たということにしたい。
齋藤	今回Webアンケートで意見を集めたので、それをどのように吸収・反映させていけるかが問題になると思う。こういう意見があったということを展開するだろうし、過去のことも考えて、当時の決めた経緯や、メリットが残っている一方、現在はギャップがあってデメリットがあるという、まとめたものを一度展開するなどして、学校ごとに意見を集めた方がよいだろう、来年度の事なので、3月の総会までには一定の結論を出したほうがよいだろう。今回はどのように進めていけるかを決めた方がよいだろう。
大西	3月の総会での決定を目指したい。
佐藤	それまでに、メーリスなどで今日出た意見を周知したい。反対意見などは受け止めて総会で話し合いたい。次回幹事会までに意見を集約するようにしたい。
宇井	出た意見を展開して、加盟員の考えを集約するというスケジュールになるだろう。次回幹事会である程度の流れを決めて、3月の総会で決めたい。
	<b>6.次回幹事会について</b>
	【次回幹事会】
	●開催日: 1月24日(筑波大学大会前日)
	●開催地: 栃木県矢板市付近
	総会終了: 18時59分